

✿ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ✿

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 活発に意見交流が行われました！「福岡市中学校生徒図書委員交流会」

福岡市中学校図書館教育研究会（会長：瀧口博之 多々良中央中学校長）主催による、恒例の交流会が、去る8月8日、あいれふ10階の講堂で行われました。

今回で58回目になる長い歴史を誇る取り組みですが、今年は、昨年までと少し内容を変え、小グループ形式での意見交流をメインとし、会の前半に図書館（読書活動）紹介とビブリオバトル、後半に意見交流と講評という構成で行われました。

全体の進行は長丘中学校の放送部員（2名）のアナウンスで進められました。また、会の記録は柏原中学校が、受付は博多中学校の生徒たちが行うなど、図書委員（文化委員）の生徒たちがしっかりと運営に携わりました。

開催にあたり、主催者挨拶として福岡市中学校図書館教育研究会の瀧口会長が、読書の持つ機能とその可能性について語られた後、「この交流会で、また、学校での図書委員としての活動を通して、大切な本とたくさん出会えること願っています。」と話されました。



本の大切さを語る瀧口会長

交流会は図書館紹介から始まりました。発表は長丘中学校が務めました。7月の図書館まつりと11月の読書集会を中心に、同校の放送部が作成したビデオで実際の様子を提示しながら紹介してくれました。

図書館祭りは3日間に渡り、初日のビブリオバトル、2日目の専門委員による読み聞かせ、そして最終日の図書館クイズの様子が紹介されました。読書集会ではビブリオバトル、ブックトーク、放送部による朗読の様子などが紹介されました。どちらの取り組みも、学校図書館来館者の増員につながっているそうです。



長丘中学校の発表を聞く参加者たち

続いて、ビブリオバトルが行われました。バトラーは席田中学校（2年生）、三宅中学校（3年生）、東住吉中学校（3年生）、老司中学校（2年生）の4名です。

バトラーたちは「読書好きになるきっかけになった本です」「〇〇は苦手という人にもお勧めです」「気分が落ちこんだ時に気が楽になる本です」とか、「〇〇は読んでからのお楽しみ」「おもしろくないラストにきっとあなたも感動します」など、全員、5分間という制限時間で工夫をこらし、ことば巧みにプレゼンしました。

チャンプ本（優勝）は参加者の得票を最も多く獲得した「怪人二十面相」（老司中バトラー紹介）に決まりました。

最後に、バトラーたちは「本の魅力にあらためて気がつきました。」「読書の奥深さを感じました。」等と感想を述べていました。

*バトラーが紹介した本

石崎洋司：作「黒魔女さんが通る!!」、東川篤哉：作「謎解きはディナーのあとで」 ジェマ・マリー：作、橋本恵：訳「2140 サープラス・アンナの日記」 江戸川乱歩：作「怪人二十面相」
--

休憩後、メインの活動でもある「意見交流」が行われました。ここでは、博多中学校の藤島美那子教諭が進行役を務めました。まず、意見を出しやすいように、1班4名程度にグループ分けを行いました。グループができたところで、自己紹介に移りました。参加者の名札には、好きな本の名前が書かれていました。これは、自己紹介をする時に、自分が好きな本の紹介を含めて行うための工夫でした。図書委員の交流会に相応しい工夫です。続いて、ワークシートが配布され、自校の学校図書館で困っている事を具体的に記入しました。次に、互いにその問題点を出し合い、グループで解決策を協議しました。グループ協議が終了した後、各グループで協議した問題点とその解決策を一つ選び、発表しました。このようにして、各グループでの交流内容を交流会参加者全員で共有しました。



意見交流中の様子



各グループからの発表の様子

発表終了後、進行役の藤島先生から、「各グループからでた解決策が、そのまま、あなたの学校にも通用するわけではないかもしれませんが、学校に持ち帰り、先生を含め、学校図書館に関わる人たちみんなで、できることを考えましょう。」との言葉があり、意見交流を終わりました。

この後、学校図書館支援センターの重村相談員（図書司書）から、「本が好きで、学校図書館のことを大切に思い、図書委員の仕事に責任感とやりがいを感じている中学生がこんなにもたくさんいることを知って、とてもうれしく思いました。これからもぜひ、本や学校図書館に対して、興味や何らかの関わりを持ち続けてください。また、みなさんの手で、さらに多くの人に親しまれる学校図書館にしてください。」と講評を述べられ、この日の交流会は終了になりました。

帰途に就く途中のエレベーターで、偶然乗り合わせた参加生徒に交流会の感想を尋ねると、「参考になることがたくさんありました。来て良かったです。」と、にこやかな表情で応えてくれました。交流会に参加された先生方もきっと同様の感想を持たれたことでしょう。

□ 平成 28 年度「学校図書館担当者連絡会」が行われました

「本市の学校図書館教育の推進について理解を深め、子どもの読書活動の一層の推進を図るとともに、学校図書館の円滑な運営に資すること」を目的に、学校図書館担当者および学校司書を対象とした連絡会が、去る 8 月 22 日、早良市民センターで行われました。

連絡会は全体会と分科会（情報交換）という構成のもと、教育委員会の挨拶に続き、学校指導課の平川主任指導主事から、「学校における読書活動の推進について」という題目で、「子どもと本をつなぐ学校図書館推進事業」の実施状況について、様々な調査結果を基に、本市の児童・生徒の読書状況や学校図書館の現状が説明されました。さらに、学校図書館教育の推進に向けて全校種で取り組みたいこと、さらには校種別の留意点について、話されました。

続いて、学校図書館支援センターから、支援内容、特に 9 月から新たに貸出しが開始される中学校向けの学習支援用図書について説明があり、小学校を含め、多くの学校での活用についてお願いがありました。

全体会の後半は小中各 1 校から読書活動に関する実践発表がありました。発表は、両校とも担当者と学校司書がペアになって行われました。

まず、八田小学校が発表しました。八田小学校では読書活動を推進するにあたり、活動を支える体制づくりと環境の整備を工夫するとともに、年間の見通し（計画）が立てられています。工夫に満ちたすばらしい取り組みがいくつもなされ、出席者は全員、感心することしきりでしたが、これも、読書活動のためのベースづくりがしっかりとされているからこそだと思われました。（八田小学校の取り組みについては別項に紹介しています。）

二つ目の発表校は友泉中学校でした。多くの学校でも実施されている「朝読書」について、生徒への達し事項や留意点について、具体的に報告されました。さらに、生徒会図書委員会が行っている取り組み内容について発表がありました。放送を使ったおすすめ本の紹介や、7 月に実施している図書室祭りなど、多くの学校に参考になったことでしょう。二校の実践発表が終了した後、質疑応答が行われ、休憩となりました。

休憩後、まず、研修会参加報告として、学校図書館支援センターの小久井読書相談員から、去る 8 月 8～10 日に行われた、全国学校図書館研究大会（神戸大会）の参加報告がありました。公益社団法人である全国学校図書館協議会（全国 S L A）が隔年で実施している全国大会です。参考になる実践事例について、たくさん紹介されました。（こちらでも別項に紹介しています。）

研修会参加報告の後、情報交換分科会が行われました。参加者は 39 のグループに分かれ、学校図書館の活性化のに向けて、学期につながる情報を交換しました。情報交換の視点として、6 点が平川主任指導主事から示されました。
①司書教諭と学校司書の連携 ②福岡市学校図書館支援センターの活用 ③蔵書の管理と廃棄について ④全校一斉読書活動～読み上げ冊数調査 ⑤学習指導における図書館利用 ⑥図書館ボランティアの活用



* 情報交換の様子

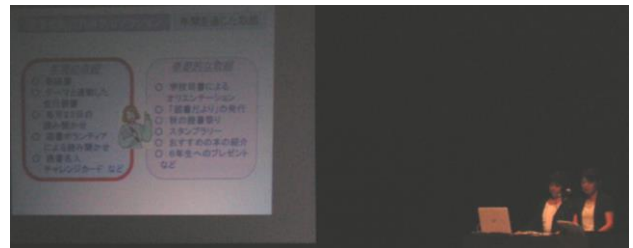
どのグループも活発に話がはずんでいました。この後、3つのグループから情報交換の内容について発表がなされ、連絡会は終了となりました。

八田小学校の取り組みについて

1 読書活動の推進を支えるベースづくり

○組織づくり

- ・ 学校長の指導のもと、司書教諭・職員・学校司書・図書事務・図書委員会（児童）・図書ボランティア（地域）・公共図書館
- * 八田小学校の発表の様子
- での連携が図られている。



○環境の整備

- ・ 図書委員会による環境整備（おすすめ本の紹介作成など掲示物の作成）
- ・ 図書ボランティアによる環境整備（季節の飾りや掲示物など、学校図書館の環境整備）

2 計画的に取り組まれている読書活動の実践例

○年間を通した取り組み

- ・ 全校集会での校長先生による本の紹介と校長室への図書の設置
- ・ テーマ研究（国語科）と連動した並行読書の取り組み（授業との連動）
- ・ 国語の教科書から読書へ広げる取り組み（芋づる式読書習慣の形成）
- ・ 毎月 23 日に図書委員会が昼休みに読み聞かせ
- ・ 図書ボランティアによる朝の読み聞かせ（地域・保護者を巻き込んだ取り組み）：毎週
- ・ 総合図書館の団体貸出の活用（3ヶ月毎、100冊貸出）
- ・ 「名人の木」に向けての読書活動の奨励（自己肯定感を高める学校の取り組みとリンク）
（子どもたちは「〇〇名人」になる目標を各自立てている。目標を達成すると、校長先生から認定証が渡されるとともに、校長室横の名人の木に名前が記入される。名人の中に読書名人もある。読書名人チャレンジカードが用意されている。）

○季節的な取り組み

（1学期）

- ・ 学校司書による学校図書館オリエンテーション
- ・ 「図書だより」の発行（学校の取り組みを家庭に紹介する役割も果たしている）
- ・ 全職員による蔵書点検作業と授業活用計画の立案

（2学期）

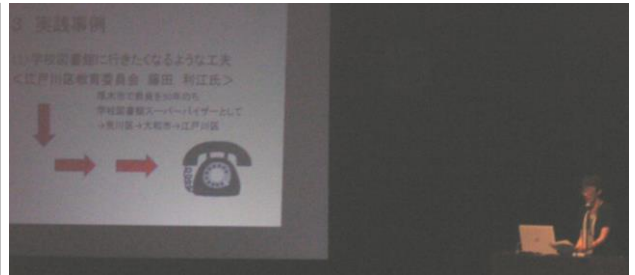
- ・ 読書週間中「秋の図書祭り」（教師による「お話レストラン（辻読書）」、図書委員による「ブラックシアター」「図書クイズ」など）
- ・ 読書週間中の読破ページ目標の設定（専用の目標設定用紙が用意される。スタンプラリーと連動）
- ・ 先生からのおすすめ本の紹介（先生自身も子どもにとっては重要な読書環境）
- ・ 図書委員会のおすすめ本の紹介（子どもたち自身による情報発信力の育成にもなる）

（3学期）

- ・ 学校司書と図書事務の先生による、6年生への読書記録のプレゼント
（1年生から6年生まで、在校中に読んだ本を一覧にして渡される。今後の読書生活への意欲づけにもなっている）

**第40回 全国学校図書館研究大会（神戸大会）
で発表された実践事例などの紹介について**

***福岡市学校図書館支援センター
小久井読書相談員の発表資料から（抜粋）**



* 小久井読書相談員の発表の様子

1 学校図書館に行きたくくなるような工夫

- 昇降口から図書室まで、いたるところに矢印（⇒）を貼り、それをたどると図書室に着くようにする（全国S L A学校図書館スーパーバイザー 藤田利江 氏）
- 先生や図書委員長などが写真で登場する「図書館へ行こう」ポスターを作成・掲示（前 相模原市立鶴野森中学校 村山正子 氏：現 東京学芸大学非常勤講師）
- 読書で玉入れ（来館したら自分のチームの籠の絵にシールを貼る）（熊本県美里町立砥用小学校 光井美樹 氏）

2 「読書センター」としての学校図書館

- 読書ノートの活用。毎日の読書記録を記入する読書ノートを全児童・生徒に配布。月末に振り返りを行う。
- ビブリオバトルの実施（小5から中3まで）学校図書館にある本を紹介する。はじめに教員がバトラーとなり児童・生徒にやり方を示す。
- 読書会の実施。ビブリオバトルで紹介された本の中から、同じ本を読んだ人が集まり感想を述べ合う。同じ本を読んでも感じ方が異なることに気づく。（以上、沼津市立静浦小中一貫学校 小谷田照代 氏）

3 「学習センター」「情報センター」としての学校図書館

- 学校の年間指導計画を見て、学習活動に必要なものを検討。（図書、パンフレット、新聞、DVD、ゲストティーチャー、パスファインダーなど）
- パンフレット・リーフレットの収集。パンフレットやリーフレットを集めていることを保護者に周知し、子どもに持たせてもらう。
- 年度初めの図書館オリエンテーションはDVDに録画し、全校一斉に校内放送。（以上、宮城県仙台市立幸町小学校 阿部実智代 氏）
- 授業における司書教諭と学校司書によるレファレンス活動。
- 校務分掌のパソコン・視聴覚・図書館教育の各担当者の連携。図書館内に様々な視聴覚機器やパソコンを設置することが容易になり、テーマ決めから発表まで図書館内で可能。

各教科での図書館活用例

- ・美術：美術作品の模写、家庭科：消費者教育の新聞づくり、数学：生活の中の関数
- 保健：生活習慣病のレポート作成、進路：職業・人物紹介

（以上、前 相模原市立鶴野森中学校 村山正子 氏：現 東京学芸大学非常勤講師）

* 村山先生のこの実践は **東京学芸大学のデジ読評価プロジェクト**のサイトから、ご覧いただけます。（次項、「役立つサイトみつけ！」をご参照ください。）

□ 役立つサイトみつけ！ 東京学芸大学 デジ読評価プロジェクト

前ページで紹介した、**東京学芸大学のデジ読評価プロジェクト**とは、文科省の支援を受け東京学芸大学が行っている研究プロジェクトで、「デジタル読解の教科書連携型デジタル教材の認証・評価と研修・養成の研究」が正式な名称です。「デジタル読解力」「デジタル教材」という言葉が使われていますが、研究の根幹は学校図書館の機能を十分に活用した授業づくりの提案にあります。TOPページを開くと、「デジ読と学校図書館」「授業に役立つデジタル教材」「授業事例」「イベント」「資料集」等の項目があらわれ、学習指導用のアプリや授業実践例、実践研究協力校（小豆島にある土庄町立土庄小学校）の通信、授業づくりのための教育コンテンツ集、探求学習に関するワークシート集などをダウンロードすることができます。

アドレスはこちら ➡

<https://sites.google.com/site/dejidoku/>

□ 福岡アジア美術館・福岡市総合図書館からのお知らせ（9月下旬～10月）

福岡アジア美術館

「アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ」

9月 25日（日）、27日（火）

10月 9日（日）、11日（火）、23日（日）、25日（火）

時間 11：30～、13：00～（1日2回）

会場 7F「キッズコーナー」

♪ 対象は未就学児および児童とその保護者、事前の申し込みは不要。



福岡市総合図書館

「おはなし会」

9月：24日（土）、25日（日）

10月：1日（土）、2日（日）、8日（土）、9日（日）、15日（土）

16日（日）、22日（土）、23日（日）、29日（土）、30日（日）

*お知らせ 29日（土）の日は福岡市総合図書館開館20周年記念の一貫として「青い鳥号」の一般公開と人形劇が行われる予定です。（詳細は次号で）

♪ 時間と場所について：

土曜日 14：30～（幼児向け）

日曜日 14：30～（幼児向け）15：15～（幼児～小学生向け）

場所「こども図書館 おはなしの家」

♪ こども図書館 10月の展示テーマ は「もの知り本」です。



□ 図書館歳時記（10月中旬まで）

♪ 特集コーナー設置の
参考にどうぞ！！

文学や言語に関係する記念日

* 10月2日：「ピーナッツ」連載開始

スヌーピーやチャーリー・ブラウンなどのキャラクターで日本でも大人気のまんが「ピーナッツ」がアメリカの新聞に連載が開始されたのは1950年のこの日です。ただし、スヌーピーが初めて登場するのは10月4日だったそうです。ちなみに、日本で初めて「ピーナッツ」の翻訳を行ったのは、なんと、谷川俊太郎だそうです。

* 10月7日：ミステリー記念日

1849年のこの日、エドガー・アラン・ポーが亡くなったのにちなんで、制定されたものです。ちなみに、江戸川乱歩の誕生日も同じ10月です。（10月21日）

* 10月9日：レ・ミゼラブル 日本初紹介

ヴィクトル・ユーゴーが1862年に執筆したレ・ミゼラブルを初めて我が国に紹介したのは黒岩涙香という人です。彼が1892年に創刊した「萬朝報」という雑誌に彼自身の翻訳により1902年から1903年にわたり「噫無情」というタイトルで連載されました。彼は他に「巖窟王」「鉄仮面」なども自身の翻訳で紹介しています。

* 10月16日：辞書の日

ウェブスターの英英辞書で知られるノア・ウェブスター（1758-1843）の誕生日にちなんで制定されました。1828年に上梓した An American Dictionary of English Language は見出し語7万に及び、彼の名は「辞書」の代名詞になりました。

* 10月17日：川端康成のノーベル文学賞が決定した日



9月・10月に関係する文学者たち

♪ 9月・10月生まれの主な文学者たち

9月24日	長 新太	(1927)	10月10日	香山 美子	(1928)
9月30日	五木寛之	(1932)	10月10日	倉橋由美子	(1935)
10月 4日	辻 仁成	(1959)	10月21日	ア・シュラ・K・ル＝グウィン	(1929)
				(「ゲド戦記」)	
			10月22日	田中 芳樹	(1952)
				(「銀河英雄伝説」)	

♪ 9月・10月に亡くなった主な文学者たち

9月26日	小泉八雲	(1904)	10月11日	冴・冴二	(1910)
9月29日	遠藤周作	(1996)	10月12日	松尾芭蕉	(1694)
10月11日	アンリ・ファール	(1915)	10月21日	志賀直哉	(1971)

□ 図書館員のひみつの本棚 No. 125

福岡市総合図書館の重村さやかさんが紹介してくださるこのコーナー、
今月は100年以上も読み継がれている物語です。



♪ 今月の「図書館員のひみつの本棚」

『砂の妖精』

E. ネズビット／作 石井 桃子／訳 福音館書店 2002年 810円

👉 添付ファイルをご覧ください。

♪ あとがきにかえて * * * * *

今月の図書館歳時記の内容に関連して・・・

初めてピーナッツの漫画に触れたのは、40年以上も前、私が大学生の時でした。当時、洋書を扱う書店で、たまたまペーパーバックのかわいい表紙が目に入り、読んでみたら、はまってしまいました。子どもの世界のことのようでいて、実は大人の社会を映し出すかのような、人の心の機微に触れる内容だったからです。また、ハロウィンのかぼちゃ大王のことや、野球の試合のたびに雨になり、マウンドでチャーリー・ブラウンが空に向かって叫ぶ Rain Rain Go Away の詩など、この漫画を通して初めて知りました。漫画はその国の文化を知る、良い手段になることも気が付きました。(後に教員となった際、授業で活用しました。)

10月7日はエドガー・アラン・ポーの誕生日ですが、「福岡市中学校生徒図書委員交流会」の記事で紹介した、中学生によるビブリオバトルの勝者が「怪人二十面相」の本を紹介した際に、ポーと江戸川乱歩の関係について語っていたことを思い出しました。「怪人二十面相」は、今の子どもたちにも、十分おもしろさが伝わるのではないのでしょうか。

さて、10月27日からは「読書週間」に入ります。今年の標語は「いざ、読書。」だそうです。「子どもと本の日」通信では、読書週間関連の記事や、読書週間中の各学校の取り組みを紹介したいと思っています。「読書週間期間中、あるいは読書週間に向けて、私の学校・園ではこんなことをします!」という情報をぜひお寄せください。

連絡先は下記のとおりです。取材にお伺いできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。

編集・発行：	福岡市教育委員会	教育支援部	生涯学習課
電 話：	711-4655	FAX：	733-5538